2023年度　日本児童教育専門学校　教育課程編成委員会　開催記録

1. 日時　令和5年9月22日　15：00～17：00
2. 場所　日本児童教育専門学校　A21教室
3. 委員等氏名及び所属

【委員】

岡崎　早苗　　株式会社チャイルドステージ人事研修部　マネージャー
（代理：中村哲也）
桑原　洋一　　株式会社どろんこ会　運営本部　本部長
（代理：青木利津）
佐久間貴子　　株式会社ベネッセスタイルケア こども・子育て支援カンパニー 保育・学童事業推進本部
（代理：前重仁美）
中山　利彦　　社会福祉法人省我会　新宿せいが子ども園　副園長
藤田ひとみ　　株式会社こどもの森　まなびの森保育園幡ヶ谷　園長
阿久津　摂　　日本児童教育専門学校　副校長
中西　和子　　日本児童教育専門学校　教務部長・保育福祉科学科長
鈴木　八重子　日本児童教育専門学校　総合子ども学科学科長

【陪席】

花村　嘉信　　株式会社NOTCH　代表取締役
請川　滋大　　日本女子大学家政学部児童学科　教授
遠藤　祐太郎　有限会社ビネバル出版/北欧留学情報センター

【事務局】

佐藤貴彦、谷村明門、芝井華子、鈴木顕典、武田眞祐美

◆議事要約◆

1、委員長挨拶

花村委員長より、進行役を務めること。本日の流れについて説明した。

2、「インターンシップの進捗状況」報告

事務局の谷村より、総合子ども学科3年生で実施を検討しているインターンシップの試行について進捗状況を報告した。

3、「評価方法（ステップバイステップや新評価表導入）」について

事務局芝井より、実習評価表の改正と、保育現場での活動および実習での個人情報のデジタル共有について説明した。

4、授業アンケートについて

学びに対する学生の満足度アップのために取り組んだことについて説明・報告をした。

5、総合子ども学科の新しい取り組みについて
　総合子ども学科のゼミの改変について説明した。

6、その他報告（夜間ブレンデット導入・認定絵本士）
　認定絵本士卒業の報告と来年度の夜間部においてブレンデット導入予定である事の報告をした。

7、意見交換
　本校の取組について、委員の方よりご意見をいただいた。

＜「評価方法（ステップバイステップや新評価表導入）」について＞
実習期間内の中間振り返りと個人情報のデジタル化について、実施の感想共有
前重委員
PDCA が共有でき、後半に向けて互いに課題の確認ができて良い。ただ、短い実習期間のどのタイミングで実施するのが効果的なのか？項目が書きにくいという意見もあった。
個人情報のデジタル化についてはとても好評だった。
中村委員
途中で確認できるので良い。評価項目が明確になっていたので評価しやすかった。本人評価と園の評価との違いが判り、その部分を丁寧に指導することができた。
個人情報のデジタル化は時代の流れでもあり問題ない。
青木委員
評価項目が明確でわかりやすい。ただ、いつ中間振り返りをしたらよいのかタイミングがわからないという声が上がっていた。
個人情報のデジタル化は好評だった。
◆　花村委員長
他校の取り組みの状況を共有させて頂く。実習後の指導と項目評価をどうつなげるか苦悩している印象があった。項目について学生本人と指導の先生とのギャップがあるので、項目ごとに何がギャップだったのかフィードバックした方が学生は受け取りやすいのではないか。また、その後の学校での指導の際には、ギャップのあった部分のクオリティを上げるには何を学んだら良いのかを学生に伝えることが出来るので指導しやすいとの声があった。
◆　遠藤委員
評価項目に「子どもの理解」とあるが、2週間の実習ではとても難しいと思う。厳しく採点される可能性があると思うが、子どもが相手なので経験していないとなかなかイメージできない。学生には自信をもって実習に臨んでもらいたいので、沢山の事例を授業内に取り込んでいる。緊張してあっという間の2週間だと思うので、授業の質を上げて楽しんで実習に臨めるようにしたい。
デジタルについてはどんどん活用した方が良いと思う。いまだに現場では判子が必要だったりするが、手書きは時間がかかるので、デジタル化には賛成。
◆　青木委員
私自身は保育現場にいたわけではないので適切ではないかもしれないが、保育園側の受け入れ態勢を変えていく必要があると感じている。学生が実習に来て楽しいと思って頂けるような、保育士になりたいと思って頂けるような受け入れの仕方については課題を持っている。
◆　中村委員

面接に来た学生に実習はどうでしたか？と聞くと実習は2度としたくないとか実習先で怒られすぎたのでそこでは働きづらいといったことを言う学生が多い。実習先に就職する学生数は多くない印象を持っている。実習では保育の厳しさを感じてもらうのか楽しさを感じてもらうのがいいのか迷っている。楽しさを感じてもらう実習指導を心がけているが、学校側が厳しい実習を望んでいるのであればそのギャップで学生が違和感を感じているのかと思う。自分のところの保育士には、いきなり先生にならなくていいんだよ、だんだんなればいいんだよと伝えている。どういうスタンスで実習を受け入れたらよいのかをもう少しはっきりと示して頂けると互いの意図がマッチしてより実習の成果が上がるのではないか。私共としては実習が就職に結びつくのが望ましいが、少なくとも実習で保育の仕事が嫌になってしまうのは悲しいこと。

◆　中西

実習への送り出しでうまくいくケースもあれば、心折れてしまってうまくいかないケースもある。現場の指導者がかつて自分が受けたように指導する場合は苦しい実習となっている。送り出す側としても、園の指導に従わなければといった遠慮もある。実習を受け入れて頂くのに、こちらからあれこれ注文するとか甘い事を言っていては現場では通用しないといった気持ちもある。1年次の最初に産学連携週で受け入れて頂く際には、実習とは違って初心者にデリケートな受け入れをお願いしている。そこでは私共の意向を受けて対応してくださっている。次に実習の受け入れとなった場合にはそういったお願いはしておらず、保育士養成課程の実習として受け入れて頂くだけのスタンスとなってしまっている。本当は実習先ともっとコミュニケーションをとって我が校はこういう形で学生を育てていくので、その過程である実習はこういうことで受け入れて頂きたいといったことが発信出来たらよいと思う。実習先の理解は大変進んでいて、個々の色々な事情を抱えている学生に対しても配慮してくださり私共もご相談ができる体制になってきているので、途中で心折れて学校をやめてしまう学生は減っている。現場で通用する人材に育てていく過程を一緒に歩めたら嬉しい。

◆　鈴木

やさしさと厳しさでいうならやさしさが望ましい。学生はかなり緊張して実習に行く。以前訪問した園の先生が「2週間機嫌よく実習してくれればよい」と言っていたが、機嫌よくというのが心に残った。本人の良いところを認めつつ足りないところを指導して頂くとよい。最初から厳しくすると拒否してしまい伝わらないので、やさしさで気持ちをほぐしてから伝えている。実習先の理解も大変進んでいると感じる。訪問の際にも学生に対してどの様に指導したらよいか聞いてくださったりこちらからの要望にも耳を傾けてくださる。現場の先生方のご理解と温かい配慮のおかげだと思う。

◆　前重委員

保育園で働くことを選択してくれた方達を歓迎する必要があると考えている。法人としては優しい受け入れをしたいと感じているが、複数園運営する中ですべての園には共有できていないかもしれない。今回の受け入れについては事前に打ち合わせを行い、園長と学校とで共有が出来た。そういった機会に実習の方針についても伝えて頂きたい。学生の受け入れの仕方を変えていくいいきっかけになる。

先ほど言い忘れたが、評価項目が評価しにくい。ミニマムスタンダードの表現がそうなっているので仕方ないのかもしれないが、オリジナルで作成するなら「6つの力」を取り込むとよいと思う。

◆　藤田委員

中間振り返りがある事で学生は、どう評価されるんだろうどう見られているんだろうとという意識の中で実習することになる。自己評価よりも園の評価が低かった場合、悪く言われてしまったというマイナスの捉え方をしてしまうのが心配。園としてはもっとこうしたらよくなるといったアドバイスの意味で評価しているが、伝わらない学生にとっては後半の実習にいかされない。そんな学生が気軽に学校に相談出来るとよいと思う。短い実習の中では信頼関係を築くに至っておらず、現場の先生には聞きにくいと思う。折角中間振り返りをするのであれば、「学生と学校」「園と学校」の振り返りも出来たらよい。そうすることで後半の実習にも生かされてステップアップにつながるのではないか。評価項目については、どこまでを求めていくのか明確なポイントがあると評価しやすい。例

えば「2歳ってどういう時期かわかる？」と聞いて答えられるかどうか等。明確なポイントがあることで、現場でも園長と職員間での共通認識のもとで指導ができる。
デジタル化については、紙でもデータでもどちらでも構わない。早く情報を頂ける方がありがたい。

◆　中山委員

8月にも実習生の受け入れをした。学生が一生懸命に描いた実習日誌を職員は誤字脱字から丁寧にチェックして最後に総合所見を記入しなければならないので、業務が一つ増えている。そこに中間振り返りまでとなると職員からはブーイングが出る。学校として、なぜ中間振り返りが必要なのかということを現場に丁寧に説明する必要がある。現場職員は実習期間中、終始学生に気を配り随時指導しているのに、更に実習日誌指導と中間振り返りまでとなると負担が重すぎる。根本的な問題提起をさせて頂くが、振り返り票の「保育の行動観察記録」について関する実習内容は本園にはない。やっていないので、優れている・適切である・努力を要するの評価が出来ない。そういった場合非該当というのがあってもよいと思う。もう少し振り返りの内容を精査した方が良いと思う。記録のあり方については考えないといけない。それが手書きであることが本当に大変。私自身が実習日誌を見る立場にあって、実習生の記録と職員からの所見を見てゴーサインを出している。実習日誌の大変さをつくづく感じている。実習にとってどういった評価項目が有効なのか精査しないといけないと思う。実習を受け入れる現場の負担についても考えて、どうしても中間振り返りが必要なのか問いてほしい。その結果、だったら仕方ないと受け入れるかもしれないし、実習の依頼がなくなるかもしれないが・・・。
職員は実習日誌の所見を Word で作成する。手書きでは読みにくい。学生の日誌を読み込むのも大変。読みやすく丁寧に描くには時間もかかり学生も大変だと思う。振り返り票に関してももう少し簡単なものにしてほしい。

◆　請川委員

幼稚園への実習送り出しを担当している。幼稚園は厳しい。日誌の件でお叱りを受けた学生がいる。真面目だが不器用な学生で、日誌を書く際にまず PC で下書きをしてから手書きで清書するため朝までかかってしまう。提出後には直しを指導され再提出の必要がある。更に翌日分の日誌を書かなければいけないので、提出が遅れてしまう。週末にまとめて記入できればよいが、そこに指導案の提出も求められどんどん提出期限に遅れてしまう。園の判断でクラスには入れてもらえず園長先生の横で日誌を書くといったことがあった。手書きで日誌を書かなくてはならないというのは、学生にとってすごく負担だということで PC で書けるようにした。雛型を学生に配って、PC で書いたものをプリントアウトして園に提出するという方法を取り入れた。園に PC 入力での対応を認めて頂けるならお願いしたい旨依頼したところ、教員から直接依頼した場合には受け入れて頂けたが、学生から依頼することは難しかった。そこで、本校では基本的に日誌は PC 入力ですと伝えた上で園の方針が手書きであればそれに従いますとした。一部の園では PC データを USB で受け取り、コメントを入力してくださる。
本校では、学生と大学の教員間でのチェックリストはあるが、教員は実習中のことはわからないので学生の書いたものを信じるしかない。効果を考えると実習先の先生にみて頂くのが良いが、先生方の負担になる。振り返り票をみると先生でもこれが全部できていたら凄いこと。実習生がこれを出来たら100点満点。特に子どもの理解とか計画のところを見たうえで、それを理解して明日やらなければならない事がわかっているのかなど本当に難しいと思う。こういうことが出来ていたらこういうレベルより分りやすい物（例とか…）があった方が、実習生も園側の担当者もチェックしやすいと思う。
日誌で嫌になってしまい、たまたま実習先の園が厳しかっただけでもその業界全体が厳しいという印象になってしまい、就職をあきらめてしまうことに繋がる。業界に人を送り出すにはマイナスになってしまう。養成校が日誌など古めかしいことを見直していかなければ、厳しいイメージを持ってどんどん業界から離れていってしまう。

◆　芝井

たくさん宿題を頂いたので、これから教職員で相談しながら、学生が現場に伺いながら保育者として活躍できるような場を一緒に作っていけたらと思います。

＜授業アンケートについて＞

◆　花村委員長

アンケート内容の詳細がないので難しいかもしれないが、今回の件にとどまらず授業アンケートという学生へのアンケートの取り組み全般についてご意見を頂きたい。

◆　中山委員

アンケートに関しては恐ろしいなあと思うが、分野別の講師会で他の先生方の授業方法を共有できてとても有益。学生の声は重要。授業の振り返りはあった方がいい。

◆　藤田委員

保育園でも実施した行事が園側の満足だけになっていないか保護者がどう感じたのか等アンケートをしている。学校でも提供した授業を学生がどう思っているのか聞取りするのはすごく大事なこと。その後、学生にどうフィードバックするかを大事にしてほしい。こちらの思いが伝わった上での評価なのか、伝わっていないからその評価になったのか。伝わっていないなら改めて伝えて、理解してもらった上での評価はどうなのか。その思いにも賛同できないのか…。学生がどう受け取っただけではなくて、思いが伝わった上での受け取りだったのかが大切。アンケート後にもうワンアクションすることで理解してもらい、納得を得られたり、新たな意見要望がいただける。

◆　前重委員

シラバスに基づく評価の部分がとても丁寧で、個別に評価をするというのは学生にとってはうれしい事だと思う。しかし、講師の皆様にとってはとても手間のかかる事なのではないか。学校の姿勢として、一人一人の学生を丁寧に見ていくというのが伝わってくる。

◆　中村委員

以前銀行員を30年間やっていたのですが、その時に 360 度評価というのが始まったりしてアンケートを取るのがはやりでもあった。アンケート結果をどう受け止めるかが非常に重要。自分の思いが強い人ほど違う評価をされた時には「それは違う」と否定からはいってしまうケースがある。そういう人にはあまり効果がないのはないかと言われていた。アンケート結果を受け止めて、よりよくするためにはどうしたら良いのか考えられるかが大事なところだと思うので、分野別会議で情報共有しているのは良い事だと思う。

◆　青木委員

実は、4年前に大学に入りなおした。現役時代とは異なり、先生に対する評価アンケートがあった。これまでは授業が分からないのは学生の理解が悪いとか学生が真面目に授業を聞いていないからだと受け止められていたが、先生も授業を振り返って次に生かすというように変わってきたのだなと感じた。学生にとっても先生にとっても大事なことなのだと改めて思った。シラバスの到達目標がある事で学びやすかった。学生の立場としては、アンケートを出したはいいがそれがどう返ってくるのか、先生方が話し合ってどうなったのかフィードバックがあるとよい。学生の意見をどう受け止めてくれたのか知りたいと思ったので。

◆　遠藤委員

アンケートというのは結果オーライ的なあって、悪いところは見ないようにする傾向にある。デンマークでは授業中に授業アンケートをして学生と先生が徹底的に話し合うという文化がある。15 回の授業の中に話し合う時間を作ってもよいのではないか。学生の率直な思いを直接聞きとる機会になって、先生が気付いていない問題点を解決する糸口にもなる。複数回そういった機会が作れるとよいのではないか。

◆　花村委員長

他校でも課題になっているのは、そもそも授業についてこれない学生が増えていること。本質は学びと評価というところであるが、その周辺で、学生の状況を可視化する必要を感じる。学生の悩みや家庭の状況などを可視化するところまで手を伸ばさないと、なかなか卒業まで持っていけない。授業の評価という文脈もあれば、学生の生活状況の把握という点についても取り組まざるを得ない。他校での取り組みなど今後機会があれば共有していきたい。

◆　請川委員

学生個人の背景を把握するところまではなかなか難しい。授業アンケートについてはかつては全科目でやっていたが今は科目を精査して行っている。数が多いと惰性になってしまって学生の意見が反映されにくい。今はオンラインでアンケートを出せるので、適当につけてしまう。自由記述に関しては的を射たことを書いている。届けたい先生ほど見ない。良い授業をする先生はアンケートをみてより良い授業をする。見ない先生にどう届けるかが課題。どうやって学生にフィードバックするかが課題になっている。学生からの要望を先生に伝えているが、実際に改善されているかどうかは分からないので、先生から学生に対して何らかのメッセージを表示する事が求められている。アンケートの集計結果を見て、「このように改善します」とか「これはこういう意図があってこうしています」とかこちらからも学生に戻せるかたちを取っている。通信課程（社会人）の学生はきちんとアンケートを書いてくれる。辛辣な意見もあるがとても参考になる。例えばスライドのデータが古いが何年同じデータを使ってるのかといった指摘や、評判のいい先生へのクレームなど、率直な意見を出してくれる。高校からの現役生に生きるコメントを書いてもらうかが課題。

＜総合子ども学科の新しい取り組みについて＞

◆　請川委員

うちでは2・3年次に卒業論文を書くためのゼミがあるが、その前の2年次にあるフィールドワーク演習というゼミに似ている。すごくいいなと思うのは行き場所などを学生に考えさせるというところ。各教員の専門性を背景に、どこに行くかは教員が決めている。学生に考えさせるのは良いが考えられるのか…。時間割の関係上、望ましい保育園見学ができない（午睡時間になってしまう）が、どの様に遠方まで出かけているのか？

→　鈴木

本校でも時間割上では3限目だが、その後に授業がないので前もって4限5限まで空けておくように指導している。

次の時間に授業がある学生がいるので、授業時間内に戻らなくてはいけない。

学生に決めさせるというのはとてもいいなと思いました。

◆　花村委員長

作るとか中でやるよりは出かける方がいい。事業者と絵本を作るプロジェクトを支援しているが、そういうのにはあまり乗ってこないのか。考えて自分たちで決めることが重要だと思った。フレームは渡して内容は学生たちが決めるというところに学びが大きい。

◆　遠藤委員

一番楽しかった思い出はゼミと答える学生が多いので、ゼミには力を入れたほうが良いと思っている。出かけるときに、保育士になる学びの一環として、学生が先生の役割をするといったカリキュラムを作っていくと楽しめるのではないかと感じた。

◆　青木委員

他校でゼミを担当しているベテラン園長が言うには、体験がすごく大事だということ。体験した中で、自分の気持ちや思いを言葉で表現することが大事。その中で自分とは違う視点に触れる学習を取り入れられたらいい。

グローバルというのはどういう内容ですか？

→　鈴木

外国籍のお子さんが多い保育所の見学やいろいろな言語の絵本の読み聞かせをするなど、海外で保育士経験のある先生が担当している。いろんな国の保育の方法を発表しあったりしている。

外国籍のお子さんも増えているので、学生の時から興味関心を持つのは現場に入ったときに戸惑わなくていいと思います。

◆　中村委員

保育の仕事というのは一人で完結するものではなく、色々な人と協力しながらやっていかなくてはならない。自分たちで考えて、人の意見と調整しながら決めていくという訓練が、早い段階からできるのは素晴らしいことだと思った。社内でも様々な研修をしている。一年間かけて一人一冊絵本を作る研修が良いと思っていたが、出かけたり食べたりする方が人気とのことなので、また検討してもよいかと思った。

◆　前重委員長

中高生も探求の活動というのが始まっていて、学生もすんなり馴染んでいくのではないかと感じた。学生のうちに何か一つ成功体験や何かをやり遂げたということが、その後の就職に繋がっていくという経験をすることで、心折れずに自信を持って卒業できる。ゼミを学ぶということは非常にいいと感じた。このゼミは途中で変えたり選択することはは可能ですか？

→　鈴木

半期ごとに変わっていきます。

変われた方がいいのか、変えずにとことん突き詰めたほうがいいのか…。選択できるということも大事だけれど一つのことを学ぶというのも大事だと思う。

◆　藤田委員

コロナ禍で、出かけるとか食べるとか出来なかった学生たちの、出かけたり食べたりしてもいいという喜びが表れていると感じた。入社一年目の人達は、みんなで食べに行ったり、行事の後に打ち上げをしたりという経験がないので、他人と知り合う経験が薄い。前期後期でメンバーが変わったていろんな人に触れる中で、自分の思いを発することが出来るようになるとよい。人とのかかわりを深めていくという意味でも少人数のゼミが新たな役割を果たしていくと思う。

◆　中山委員

とても斬新なカリキュラム編成となっており驚いている。中高で総合的な学習の時間に、座学とは別の体を動かしながら体験できる機会を学校側が提供するということは、学生にとっても学びへのモチベーションを高めることに繋がる。様々な分野について半期ごとに経験することによって、経験した内容が保育の現場に入った時に、経験したことがアイデアとなって保育を創造していくことにつながるのではないかと期待される。ゼミの体験で様々な情報が蓄積されて、やがて保育現場で応用されて保育を豊かにすることに繋がる事が予想されてとてもいいなと感じる。

以上、終了時間となり、散会となった。